

群馬の畜産 みんなの情報室

第359号

発行日
令和6年1月31日発行:公益社団法人 群馬県畜産協会
〒379-2147 前橋市亀里町1310 群馬県JAビル 3階/TEL:027-220-2371 FAX:027-220-2372
ホームページ:https://www.chikusankyokai.or.jp

年頭のご挨拶 公益社団法人群馬県畜産協会 会長 林 康夫

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様方には、平素より本会事業に対しまして、特段のご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、年頭には県内で高病原性鳥インフルエンザの発生、能登半島地震、羽田空港での航空機事故が重なり、厳しい一年のスタートとなりました。犠牲になられた方々に心よりお悔やみ申し上げるとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の沈静化により、社会・経済活動は緩やかに回復しましたが、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化など国際情勢の悪化に加え、歴史的な円安による物価の上昇が国民生活に大きな影響を及ぼした一年であったと感じております。

畜産におきましては、これらの影響のほか、世界的な穀物需要の増大、トウモロコシ等の輸出国の作柄悪化などの複合的な要因から、配合飼料価格の高騰が長期化する一方、牛枝肉価格の低迷と肉用子牛価格の大幅下落に直面し、これまで想定し得ない生産環境の悪化により、本県では酪農を中心に離農が急速に進みました。また、家畜衛生については、高病原性鳥インフルエンザが国内で猛威を振るい、本県におきましても1月に複数の養鶏場で発生があり、飼養衛生管理基準の遵守・徹底による最大限の防疫対策が求められる年でありました。そのほか、明るい話題としましては、群馬県畜産試験場産の黒毛和種雄子牛が、昨年までに（一社）家畜改良事業団の種雄牛に4頭が選抜され、県内外の生産者から注目を集めました。本県の和牛改良を進めるうえで、県畜産試験場の黒毛和種繁殖基礎雌牛に大きな期待が寄せられています。

本会といたしましては、今年是这样した情勢を踏まえ、安定的な畜産経営を継続するための経営支援をはじめ、価格安定対策、自給飼料増産の推進、家畜や農場の衛生対策、県産畜産物の理解増進、畜産経営の人材確保、家畜改良の推進など協会としての役割を十分に発揮できるよう、職員一丸となり全力で諸課題に取り組み、本県畜産産業の発展に寄与して参る所存であります。

結びに、令和6年が皆様にとって素晴らしい一年となりますことをご祈念申し上げますとともに、本会に対する皆様の一層のご支援・ご協力をお願い申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

目 次

年頭のご挨拶	1	群馬県養豚協会主催 養豚基礎セミナーの開催	8
群馬県畜産協会 第54回理事会の開催	2	人工授精師研修会の実施	8
第27 群馬県畜産共進会(繁殖と牛の部)、群馬県繁殖と牛女性審査競技会の開催	4	令和5年度関東甲信越地域協議会養鶏研究大会の開催	9
第27回群馬県畜産共進会(乳牛の部)、第20 回関東地区ホルスタイン共進会の開催	5	第27回群馬県養蜂協会 蜂蜜品質向上共励会の開催	9
山羊登録および審査に係る研修会の開催	6	人材交流実施報告(肉用牛担当 清水睦記)	10
乳牛登録委員研修会の開催	6	肉用子牛生産者補給金制度、和子牛生産者臨時経営支援事業の発動状況について	10
(株)川田牧場 牧場体験交流会の開催	7	価格安定事業発動状況、市況	11
浦和競馬場における畜産フェア及び冠レースの実施	7	みんなで行こう! ケイバ! 南関東4競馬場開催日程	12

群馬県畜産協会 第54回理事会の開催

去る、令和5年11月14日に群馬県JAビルにおきまして、第54回の理事会が開催されました。

主な議案は、「令和5年度変更事業計画及び収支補正予算の承認について」です。令和5年3月8日に第51回理事会で決議されました「令和5年度事業計画及び収支予算案」を、今年度の執行見込みにあわせ事業計画の変更、及び収支予算の補正を行いました。

今回の事業計画の変更、収支予算の補正に伴い、公益目的事業は当初の70事業から73事業に増加し、収益等事業を合わせ、合計87事業を実施する計画となりました

1 変更事業計画の概要

(1) 公益目的事業

公益目的事業は、事業内容等から、畜産経営の安定を支援する事業、畜産経営の向上を支援する事業、家畜及び畜産物の安全性確保と理解醸成を図る事業、家畜の能力向上を促進する事業の4種類に区分されます。当初事業計画の作成後に新たに実施が決定された事業、事業内容の変更、事業量等の変更が見込まれる事業、廃止となった事業を中心に事業計画の変更を行います。

(ア) 畜産経営の安定を支援する事業

肉用子牛生産者補給金制度、肉用牛肥育経営安定交付金制度（牛マルキン）は、事業参加頭数は微減していますが、概ね計画どおりの実施を見込んでいます。なお、物価高騰、世界情勢の変化に伴い、肉用子牛生産者補給金制度では、肥育生産者の肉用子牛の買い控えの影響から、第1四半期より平均売買価格の下落傾向が見受けられ、第2四半期では、黒毛和種で21年ぶりに補給金が交付されます。また、昨年度、緊急対策として国が措置した和子牛生産者臨時経営支援事業では、和子牛価格の大幅な下落を踏まえ、事業内容が拡充され、事業実施期間も令和5年12年まで延長となり、第2四半期分で支援交付金が交付されます。一方、肉用牛肥育経営安定交付金制度（牛マルキン）では、第1四半期（4～6月分）から第2四半期の7～8月分まで、交雑種の4月販売分を除き、全品種で発動が続いており、引き続き交付金が交付されます。そのほか、肉豚経営安定交付金制度の登録生産者からの委託を受けて実施する生産者事務受託事業の契約頭数は、参加戸数の減少を受け、事業参加頭数は減少を見込んでいます。

(イ) 畜産経営の向上を支援する事業

畜産経営に対する経営向上支援、畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業（畜産クラスター事業）の機械導入事業の推進、畜産経営の労働省力化を図る畜産ICT機器等の導入支援の推進、利用組合が実施する酪農ヘルパー事業の実施、畜産の環境保全に対する支援、女性経営者が抱える課題、畜産人材の確保育成に係る事業、産業動物獣医師を希望する獣医学生への就業を支援する事業等は、概ね計画どおりの実施を見込んでいます。

また、令和4年度まで中央畜産会が実施した「酪農労働省力化推進施設等緊急整備対策事業」は、5年度に組替となり、酪農の労働負担軽減や飼養管理技術の高度化を図る機械装置の導入とそれに伴う一体的な施設整備を行う「酪農緊急パワーアップ事業」の一部を受託し実施します。

(ウ) 家畜及び畜産物の安全性確保と理解醸成を図る事業

家畜保健衛生所や民間獣医師と連携し、家畜生産農場に対する飼養衛生管理基準の指導や実施状況の確認、家畜伝染病の発生予防のための検査及びワクチン接種、野生獣対策、家畜防疫・衛生対策、豚熱（CSF）経口ワクチン散布に係る対策協議会の運営、アフリカ豚熱（ASF）対策関連事業の侵入防止柵の設備利用状況調査、牛疾病（BSE）関連対策の促進支援、消費者に対する畜産の理解醸成を図る事業等は、概ね計画どおりの実施を見込んでいます。一方、家畜伝染病のうち口蹄疫や豚熱（CSF）が発生した場合に、淘汰した牛・豚の代替畜の導入費用の一部を互助補償する家畜防疫互助基金支援事業については、廃業農家の増加に伴い加入戸数・頭数の微減が見込まれます。そのほか、国庫事業の要件に該当しない大規模生産農場を対象に、民間獣医師等による飼養衛生管理基準に基づいた衛生管理指導を行う事業については、指導対象農家数の増加を見込んでいます。また、令和4年度まで家畜衛生対策協議会が実施した「野生獣衛生推進体制促進事業」は、5年度に組替となり、家畜衛生関係者と連携して野生獣衛生対策を推進する「野生獣衛生対策促進事業」を実施します。

(エ) 家畜の能力向上を促進する事業

和牛の中核的担い手の優良繁殖雌牛の増頭奨励、畜産クラスター計画に基づく繁殖雌牛の増頭を加速化する事については、昨今の畜産経営の環境悪化に伴い、事業参加頭数の減少を見込んでいます。また、ゲノムを活用した家畜の能力評価を支援する事業、また、改良の成果を競う共進会の開催、優良形質を持つ繁殖牛の県内保留を促進する事業、「第13回全国和牛能力共進会」に向けた出品対策関連事業は、概ね計画どおりの実施を見込んでいます。

(2) 収益事業等

家畜登録事業においては、概ね計画どおりの実施を予定しています。その他の事業は、概ね計画どおりの実施を予定しています。

()は令和5年度当初予算計画時の事業頭数

2 新規（組替）等事業の概要

(1) 酪農緊急パワーアップ事業（組替）

公益目的事業（公1（2）経営向上支援）
受託事業（中央畜産会）

(2) 野生獣衛生対策促進事業（組替）

公益目的事業（公1（3）安全・理解）
助成事業
（家畜衛生対策協議会（事務局：中央畜産会））

(3) 肉用子牛生産者補給金制度事業手数料

(4) 肉用牛肥育経営安定交付金制度手数料

(5) 酪農ヘルパー傷病時等利用互助事業事務費

会計区分		補助事業	助成事業	特別事業	受託事業	家畜登録	事務受託	自主事業	計
公益目的事業会計	公1(1)経営安定支援	2 (2)			1 (1)		1 (1)	3 (1)	7 (5)
	公1(2)経営向上支援	8 (8)		1 (1)	8 (7)			9 (8)	26 (24)
	公1(3)安全・理解	4 (4)	6 (5)		4 (4)			8 (8)	22 (21)
	公1(4)能力向上	8 (8)		6 (8)	2 (2)			2 (2)	18 (20)
	小計	22 (22)	6 (5)	7 (9)	15 (14)		1 (1)	22 (19)	73 (70)
収益事業等会計	収1(1)家畜登録					6 (6)			6 (6)
	他1(1)団体事務受託						8 (8)		8 (8)
	小計					6 (6)	8 (8)		14 (14)
合計		22 (22)	6 (5)	7 (9)	15 (14)	6 (6)	9 (9)	22 (19)	87 (84)

3 収支補正予算の概要

今年度の収支補正予算は、令和5年3月時点の事業計画に基づく収支予算と比較しますと、収入、費用が平行に変動する肉用子牛生産者補給金制度、肉用牛肥育経営安定交付金制度（牛マルキン）の収支変動を除けば、大きな差異はありません。

軽微なものとしては、インボイス制度に関連した公益社団法人全国和牛登録協会が実施する和牛の血統登録料等の納入方法の変更に伴う科目変更、中央団体等が実施する事業の組替に伴う事業の変更、会計事業の一部を実施事業として実施するほか、「肉用子牛生産者補給金制度」、また、これを補完する「和子牛生産者臨時経営支援事業」、「肉用牛肥育経営安定交付金制度（牛マルキン）」等の発動に起因するものが補正の中心となります。

(1) 経常収益

収支補正予算に係る経常収益は16億2,416万円であり、9億6,928万円増加する見込みです。

主な要因は、「肉用牛肥育経営安定交付金制度（牛マルキン）」の受取機構交付金が7億3,500万円の増加、「地域畜産支援強化事業」の受取地域畜産支援強化事業補助金が781万円の増加などによるものです。

一方、事業収益、手数料収益は、事業参加頭数の減少に伴う減収を見込んでいます。

また、10月20日、令和5年第2四半期（7～9月分）に発動となった「肉用子牛生産者補給金制度」、及び「和子牛生産者臨時経営支援事業」については、9月末時点で子牛販売頭数が確定しないため、今回の補正予算には未計上ですが、今後、農畜産業振興機構からの受取機構生産者補給交付金、及び受取和子牛生産者臨時経営支援事業補助金の増加が見込まれます。

(2) 経常費用

収支補正予算に係る経常費用は16億3,106万円であり、9億7,320万円増加する見込みです。

主な要因は、「肉用牛肥育経営安定交付金制度（牛マルキン）」の肉用牛肥育交付金が9億8,000万円の増加によるものです。

また、経常収益同様、9月末時点で販売頭数が確定しないため、今回の補正予算には未計上ですが、今後、令和5年第2四半期（7～9月分）に発動が予定されている「肉用子牛生産者補給金制度」の補給金、及び「和子牛生産者臨時経営支援事業」の支援交付金の交付に係る支払機構生産者補給金、及び支払補助金の増加が見込まれています。

事業実施がコロナ禍以前の状況に戻りつつあり、事業実施に係る費用について増加傾向にあります。

(3) 総括

このことから、経常収益計は、当初予算の6億5,487万円から16億2,416万円に、経常費用計は、当初予算の6億5,786万円から16億3,106万円に予算を増額補正します。

経常外収益では、「獣医師養成就学資金給付事業」の給付金の返還が予定されていますので、受取返還金として490万円を増額補正します。

また、経常外費用では、同様に、受け取った返還金を農林水産省、共同負担者（県）への支払返還金として、同額の490万円を増額補正します。

これらから、税引前当期一般正味財産増減額は、当初予算のマイナス298万円からマイナス689万円に減額補正するとともに、法人税、住民税及び事業税を差引いた、当期一般正味財産増減額は、当初予算のマイナス598万円からマイナス391万円減のマイナス989万円に減額補正します。

ご承認いただきました変更事業計画及び収支予算をもとに、令和5年度の事業の実施について、適正執行に努めてまいりたいと思います。

第27回群馬県畜産共進会(繁殖和牛の部)、群馬県繁殖和牛女性審査競技会の開催

○繁殖和牛の部

令和5年10月16日(月)に群馬県畜産試験場(前橋市富士見町)において、第27回群馬県畜産共進会・繁殖和牛の部を開催しました。出品された計48頭4組(実頭数52頭)について、体型や品位・資質等に関する(公社)全国和牛登録協会の審査標準に基づいた審査が行われました。

名誉賞にはみなかみ町の片野嘉平氏出品の高等登録群「ももこ2」「ももこ2の4」が受賞しました。両牛とも、体積豊かで中軀の張り、均称に優れた雌牛で、品位及び骨味も良好で種牛性にも富んでおり、母と娘の相似性に優れた組でありました。「ももこ2」は5部で優等賞1席、「ももこ2の4」は3部で優等賞2席と単品の部でも優秀な成績を納めました。

繁殖和牛の部(優等1席)

	出品牛名号	出品者	備考
1部(未経産)	あつだ373の2	高橋 孝一	
2部(未経産)	ますわか	田村 剛	
3部(未経産)	ふじひら	下山 直也	
4部(経産)	ひのゆりひめ61	片野 嘉平	
5部(経産)	ももこ2	片野 嘉平	
6部(繁殖雌牛群)	わごうひかる2	吉田 雅信	
	わごうよしひかる		
	わごうなす		
7部(高等登録群)	ももこ2の4	片野 嘉平	名誉賞
	ももこ2		



名誉賞：第7部(高等登録群)ももこ2、ももこ2の4
出品者：片野 嘉平

○群馬県繁殖和牛女性審査競技会

令和5年10月16日(月)に群馬県畜産試験場にて群馬県繁殖和牛女性審査競技会が開催されました。この審査会は群馬県畜産共進会「繁殖和牛の部」の第4部の審査内で行われ、当日は13人の農業関係に従事する女性が参加し盛り上がりを見せました。この競技は、女性が審査を行った結果と、実際の審査員が行った評価を比較し、それに基づいて最も近い評価を行った人に順位をつけます。審査内容を比較した結果、参加した方々の評価と実際の審査員の評価との差は少なく、非常に良い結果が得られました。

群馬県繁殖和牛女性審査競技会(最優秀賞・優秀賞)

最優秀賞	山後 咲来(前橋市)
優秀賞	中澤 咲紀(前橋市)
	新井 さき子(前橋市)
	萩原 奈津美(長野原町)



審査競技会の参加者



審査の様子(上・下)

第27回群馬県畜産共進会(乳牛の部)、第20回関東地区ホルスタイン共進会の開催

○第27回群馬県畜産共進会(乳牛の部)

令和5年10月20日(金)、群馬県畜産試験場にて、第27回群馬県畜産共進会・乳牛の部を開催しました。未経産18頭、経産31頭が出品され、体型や乳用強健性、乳房等について(一社)日本ホルスタイン登録協会の審査標準に基づき審査が行われ、農林水産大臣賞には、北軽ヤグマン所有のRH ヤグマン モントレーが選出されました。

乳牛の部(名誉賞)

部	区分	名号	出品者
ジュニア	2部	ジヤグロフ リツジ ラムダ マンサラ ET	齊藤 将聡
インターミディエイト	6部	KCF MS エクス サンデー ET	(有)KC牧場
シニア	11部	RH ヤグマン モントレー	北軽ヤングマン



RH ヤグマン モントレー：北軽ヤグマン所有

○第20回関東地区ホルスタイン共進会

関東地区ホルスタイン共進会が、令和5年11月15日(水)～16日(木)に千葉県千葉市(千葉家畜市場)で5年ぶりに開催されました。本共進会は、1都6県より選出された各県の代表牛が一堂に会し、各県の乳牛改良のレベルを競い合うことを目的に76頭(未経産30頭、経産46頭)が出品されました。本県からは、第27回群馬県畜産共進会・乳牛の部で選抜された14頭(未経産5頭、経産9頭)が出品され、成績は群馬県出品の14頭中11頭が優等賞に入るとともに、名誉賞、準名誉賞を独占する快挙でした。また、最高位賞は群馬県畜産共進会と同様、北軽ヤグマン所有のRH ヤグマン モントレーが選出されました。これまでの群馬県の改良の成果が発揮されたことに加え、チームワークの良さが今回の好成績に結びついたと感じました。

また、令和5年12月19日(火)に群馬県庁において、群馬県農政部長に出品団による結果報告を行いました。農政部長は、ねぎらいの言葉と今後の活躍を祈念されました。

第20回関東地区ホルスタイン共進会(名誉賞・準名誉賞)

賞	区分	名号	出品者
名誉賞	4部	ジヤグロフ リツジ ハンコック サリー	KIZUNA syndicate
	7部	サニーファースト W クラッシュブルガーナ	大澤 直弥
	10部	RH ヤグマン モントレー	北軽ヤングマン
準名誉賞	3部	リスペクト ラティーズ ラッシュ	三輪 圭吾
	7部	アガチュープライト L メリツカーラ	吾妻中央高校
	9部	ブルーエンゼルダイヤモンド バックウヘット	(有)KC牧場



審査会場の様子



結果報告の様子(砂皿農政部長と共に)



集合写真

山羊登録および審査に係る研修会の開催

～ 60年以上に渡り培われてきた山羊改良の知識を深める ～

令和5年12月19日（火）群馬県畜産試験場にて、山羊登録および審査に係る研修会を開催しました。県内外の飼養者やJA、県関係者、本会職員の19名が参加しました。

講師には、（公社）畜産技術協会事務局長・八木淳公氏を招き、山羊登録の意義や規定等についてご講演いただき、実習では前橋市・田部井光明氏が飼養する3頭の雌山羊の生体審査を行いました。

群馬県では、64年前から山羊の共励会が行われてきました。近年、県内で山羊の改良に尽力されてきた飼養者の高齢化が進んでいる一方、新規に共進会・交換会に出場する飼養者も見受けられ、今一度、山羊の登録や改良に関する知識を深める場が必要だと考えていました。

そのような中、本会が主催で県畜産共進会（山羊の部）を開催するようになって昨年度で10周年という節目で、関係者の皆様にご協力いただき、このような研修会を初めて開催することができました。

実習では、講師と生産者が意見交換をする中で、飼養者が日々の管理で着目している点と、登録で求められる山羊の資質の間に違いがあることがわかりました。また、講師からは、改良や飼養管理に関するアドバイス、他県の状況等の情報提供をしていただきました。

当研修会の内容が今後の飼養者の飼養管理および関係者の指導に生かされることは、本県の強みである山羊の生産基盤の強化につながると考えます。本会は、その強みを生かして、近年高まる山羊の多面的な利用価値への需要に応じた山羊の安定的な生産に貢献できるよう、今後も事業に取り組んでまいります。



八木淳公氏



実習の様子

乳牛登録委員研修会の開催

令和5年12月15日（金）に群馬県JAビル10階第2会議室にて、令和5年度乳牛登録委員研修会を開催しました。（一社）日本ホルスタイン登録協会登録課課長の門間裕子氏を講師に招き、県関係職員、登録関係団体及び本協会職員17名が参加しました。

今回は、個別登録における血統登録申込書の作成手順を中心に、ET生産牛の血統登録申込み、移動証明申込み、事故を防ぐための対策、自動登録、遺伝子検査の申込み等、登録の基本的な内容が中心でした。

今後、登録事務を実施する上で、「ホルスタイン登録の手引き」を有効活用し、より知識を深めることが大切であると感じました。



講義の様子



(株)川田牧場 牧場体験交流会の開催

牧場での様々な体験を通して、畜産物の生産現場や畜産の役割についての理解を深めることを目的とし、一般消費者の親子を対象に、令和5年10月28日(土)に利根郡川場村の(株)川田牧場にて日帰りコースの牧場体験交流会を開催しました。

(株)川田牧場では、経営者である川田忠さんに案内していただき、施設の見学や搾乳体験、牛とのふれあいを楽しみました。また、体験後にはJA利根沼田で販売されている牛乳の試飲や、(株)川田牧場で生産された牛乳を使ったジェラートの試食を行いました。

牧場体験を通して、消費者の畜産への理解を深めるとともに、畜産業を職業として選択するきっかけづくりとして、今後も牧場体験交流会を開催していきたいと考えています。

■川田牧場(日帰りコース)

開催日：令和5年10月28日(土)

参加者：6組(大人8名、子供8名)

体験内容：牛舎の見学、搾乳体験、
牛とのふれあい、
牛乳・ジェラートの試食



搾乳体験の様子



説明を聞く参加者の様子

浦和競馬場における畜産フェア及び冠レースの実施

令和5年11月20日～24日の5日間にわたり、埼玉県、栃木県、長野県、本県の4県の畜産協会及び馬事畜産振興協議会共催で浦和競馬場にて畜産フェアを実施しました。

新型コロナウイルスが5類相当になったことを受け、4年ぶりに来場者プレゼントが再開となり、本県が担当した11月22日においては、東毛酪農の飲むヨーグルトを先着500名に配布しました。開催期間5日間の来場者数は17,909人と大変盛況でした。

またコロナ禍において恒例となったWEBキャンペーンも継続実施となり、南関東4競馬場HP上において専用サイト開設および当選者に対し、群馬・栃木・埼玉・長野、各県の畜産物を発送しました。期間中の応募者総数は56,751名となり、当選者数は165名となりました。

また、開催期間中において、本県畜産関係団体主催の冠レースを4競走(群馬県畜産協会長賞、上州和牛賞、高崎ハム賞、東毛酪農63℃賞)実施し、優勝馬の馬主や騎手、調教師へ副賞授与を行いました。

本イベントへの参加により、地方競馬および畜産振興に資することを目的とし、県産畜産物への感心をより一層高めるため、今後も取り組んでまいります。

本県畜産関係団体主催の冠レース 勝ち馬一覧

	馬番	馬名	騎手
【第7レース 高崎ハム賞】	4	イデアユウシン号	張田 昂
【第8レース 東毛酪農63℃賞】	4	ゴルトレオパルド号	今野 忠成
【第9レース 上州和牛賞】	2	ジョーエスボワール号	西 啓太
【第10レース 群馬県畜産協会長賞】	12	シーサーペント号	森 泰斗



来場者プレゼントの様子



群馬県畜産協会長賞 電光掲示板



レースの様子

群馬県養豚協会主催 養豚基礎セミナーの開催

令和5年10月13日（金）に前橋商工会議所にて養豚基礎セミナーが開催されました。

養豚生産者やJA職員、飼料会社、県機関など40名が出席しました。

前半では、兵庫県立大学自然・環境科学研究所（兵庫県森林動物研究センター）横山真弓氏より、「豚熱発生に伴う野生イノシシ対策について」という演題でご講演いただきました。イノシシの広域生息密度のモニタリング手法について、マニュアル作成に至るまでの研究内容およびモニタリング手法の概要等をご説明いただき、実際に行われているイノシシの捕獲活動についても紹介がされました。

後半では、熊本興畜株式会社 代表取締役 石渕大和氏より、「現状を取り巻く厳しい養豚経営での取り組みについて」という演題でご講演いただきました。設備生産性、労働生産性の向上や事業規模の拡大による地域貢献等の経営理念をご説明いただき、質疑応答では経営方針や飼養設備についての意見交換が盛んに行われました。



横山真弓氏



石渕大和氏



会場の様子

人工授精師研修会の実施

令和5年11月20日（月）家畜改良事業団 前橋種雄牛センターにおいて、群馬県家畜人工授精師協会主催の研修会が開催されました。

令和5年2月に西川賞を受賞した赤城酪農業協同組合連合会所属の鮎貝哲成氏により、全国大会時に発表した「乳用牛の胚移植前6日目黄体の血流量簡易スコアの検討」に加えて「移植成績の向上と農場収益向上に向けて」の情報を聴くことができました。

また、家畜改良技術研究所の荻野 敦氏による「肉用牛のゲノミック評価の活用について」の講演がありました。また情報提供サービス G-Eva（ジーバ）についての説明もありました。

そのほか、前橋種雄牛センターで飼養されている種雄牛を見学することができました。



種雄牛見学の様子



鮎貝哲成氏によるご講演



荻野敦氏によるご講演



板橋場長によるセンター概要説明

令和5年度関東甲信越地域協議会養鶏研究大会の開催

令和5年10月17日（火）に茨城県水戸市ホテルレイクビューにおいて、群馬県養鶏協会が事務局を務める日本養鶏協会関東甲信越地域協議会主催の関東甲信越地域協議会養鶏研究大会が開催され、養鶏生産者、飼料会社、関係機関等230人が出席しました。

研究大会の講演では、株式会社エヌ・ビー・エル（鶏と卵の研究所）取締役・牧野荘一氏による「高病原性鳥インフルエンザの発生の特徴と対策」についてご講演いただきました。

また、情報提供として、たまご知識普及会議の齋藤大天氏（（株）愛鶏園会長）から「たまご知識普及会議の取り組み」の活動が報告されました。

大会終了後の夕食・懇親会では、高病原性鳥インフルエンザ防疫強化対策、鶏卵消費拡大、アニマルウェルフェア等、業界として取り組む課題について、参加者間で積極的に情報交換がされました。



日本養鶏協会関東甲信越地域協議会
会長 都丸高志氏



研究大会講義会場の様子

第27回群馬県養蜂協会 蜂蜜品質向上共励会の開催

群馬県養蜂協会は、県産蜂蜜生産技術の向上により養蜂経営の安定を図るために、令和5年10月18日（水）に群馬県庁県民ホールにおいて、はちみつ品質向上共励会及び即売会を開催し、会員である県内10支部より81点（うちアカシア24点、百花57点）が出品されました。

審査は、出品者名を秘匿とし、別に定める審査規定により糖度、色沢、風味の3項目について評価し、得点数の合計により、県知事賞各1点、県畜産協会会長賞各1点、（一社）日本養蜂協会会長賞各1点、県養蜂協会会長賞各5点を選出します。

春先の霜等の異常気象の影響で、糖度、色沢、風味がやや低いものも散見されましたが、アカシアの部、百花の部ともに平均糖度は80度と全般的に品質が良く風味もすばらしいものが多数見られました。

また、共励会終了後に行われた同出品蜂蜜の即売会では多くの方々にお越しいただき、大盛況となりました。



出品された蜂蜜



入賞した蜂蜜

蜂蜜品質向上共励会（群馬県知事賞）

部門	支部	出品者
アカシアの部	利根沼田	高山 敏夫
百花の部	東毛	小川 雅已

人材交流実施報告（肉用牛担当 清水睦記）

この度、本会の新たな取組として、本会職員の資質向上と研鑽、広い視野をもつ人材育成及び畜産会組織相互の連携による人脈形成等を目的として、隣県の公益社団法人栃木県畜産協会との人材交流を実施しました。栃木県畜産協会は実施する事業内容が本会と類似していること、かねてより事業を実施する上での連携強化を図ってきた経緯もあり、本取組へご理解いただき実施に至りました。

取り組む上では「どの職員を」という視点ではなく「どの業務を」という視点から対象業務分野を絞り、その業務に従事する職員双方が人材交流を実施することで、自身の従事業務に対して多面的に捉える機会の提供と業務上の課題解決につながることを期待する分野として選定されました。初回である今年度はここ数年の増頭関連の事業などの効果もあり事業量が増加している「和牛登録業務」が対象となり、担当者として実施してきましたので報告いたします。

まず、栃木県畜産協会職員が本県で1週間交流し、その翌週に私が栃木県で一週間交流しました。交流時の対応業務は、和牛の子牛登記や登録業務、家畜改良事業団より受託している平準化事業の調査牛引渡し業務等でした。県内繁殖雌牛飼養頭数で比較すると、栃木県は群馬県の約2倍であることもあり、大規模経営体も多く毎月の子牛登記頭数も100頭以上対応している農場もあるようです。栃木県は本県より登録業務を効率的に実施しており、学ぶ事がたくさんありました。

最後に今回の研修では各県での仕事のやり方の違いなど参考になりましたが、1番良かった事は、人材交流を通じて栃木県畜産協会との友好関係が深まった事だと感じます。今後困った事があれば気軽に相談できる関係を築く事が出来ました。今後は学んできたことを生かし、今まで以上に群馬の畜産を盛り上げていきたいと思ひます。



平準化事業調査牛引渡し業務

肉用子牛生産者補給金制度、和子牛生産者臨時経営支援事業の発動状況について

全国的な子牛価格の下落を受け、子牛の価格安定対策事業である肉用子牛生産者補給金制度が令和5年度第2四半期に（黒毛和種）で発動しました。前回発動したのは、国内で発生した牛海綿状脳症（BSE）の影響で子牛価格が暴落した2002年で、21年ぶりの発動となります。対象になるのは、各四半期に販売または、自家保留された子牛であり、四半期毎の全国平均価格が保証基準価格（黒毛和種は55万6000円）を下回った場合に、その差額を国が補填する仕組みとなっています。また、臨時対策事業の和子牛生産者臨時経営支援事業も発動しました。この事業は北海道、東北、本州関東以西・四国、九州・沖縄の全4ブロック別に平均価格を算出する仕組みとなっています。発動基準価格は60万円で、補給金が交付される部分を除いた部分の4分の3が補填されます。対象となるのは令和5年7月～令和6年3月に販売された和牛子牛であり、本県は本州関東以西・四国ブロックに含まれます。補給金単価、交付金単価は下表のとおりです。

全国的に見れば12月の子牛価格はやや上昇しましたが、生産コストの高止まりなど厳しい状況は今後も続く見通しです。こんな状況だからこそ、セーフティーネットでもある肉用子牛生産者補給制度に加入し、制度を有効に活用していただければと思います。

未加入の方、事業についてご不明点等ある方は、畜産協会までお問い合わせ下さい。

品種・ブロック名		R5年度第2四半期			R5年度第3四半期		
		臨時対策の 支援交付金 単価	肉用子牛生 産者補給金 単価	合計単価	臨時対策の 支援交付金 単価	肉用子牛生 産者補給金 単価	合計単価
黒毛和種	北海道	4,000	34,400	38,400	15,900	33,500	49,400
	東北	33,000		67,400	33,000		66,500
	本州関東以西・四国	16,400		50,800	16,400		49,900
	九州・沖縄	47,600		82,000	49,500		83,000
褐毛和種		5,000	-	5,000	-	-	-
その他の肉専用種		-	-	-	22,500 (R5.1～3月販売分)	-	-
					18,700 (R5.4～12月販売分)		

価格安定事業発動状況

■肉用子牛生産者補給金制度 補給金交付状況（令和5年度1月～12月）

区分				平均売買価格(円)					交付単価(円)					交付額(円)				
業対	年次	月次	期別	黒毛	褐毛	他肉	乳用	交雑	黒毛	褐毛	他肉	乳用	交雑	黒毛	褐毛	他肉	乳用	交雑
7	5	1～3	第4四半期	613,600	523,500	252,300	148,100	308,200	-	-	67,630	15,900	-	-	-	-	540,600	-
		4～6	第1四半期	586,800	534,000	-	170,200	304,200	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		7～9	第2四半期	521,600	553,000	-	196,900	299,600	34,400	-	-	-	-	23,288,800	-	-	-	-
		10～12	第3四半期	522,500	574,500	-	182,900	326,600	33,500	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		計			※他肉（その他肉専用種）はR2年度より算定期間が1年（4月～3月）となりました。													

■肉用牛肥育経営安定交付金制度（牛マルキン） 交付金交付状況（令和5年11月期）

期間	品種区分	納付区分	支払い区分	交付対象		交付金の額			交付日
				人数 (人)	頭数 (頭)	(円) (4/4)	交付金として 支払う額 (3/4)	設立金から 支払われる額 (1/4)	
11月期	肉用種	通常	概算払		1,185	91,920,769	68,940,548	22,980,221	概算払日 令和6年 1月29日
		猶予			0	0	0	0	
		計		80	1,185	91,920,769	68,940,548	22,980,221	
	交雑種	通常	概算払		1,146	11,242,454	8,431,810	2,810,644	
		猶予			0	0	0	0	
		計		87	1,146	11,242,454	8,431,810	2,810,644	
	乳用種	通常	概算払		0	0	0	0	
		猶予			0	0	0	0	
		計			0	0	0	0	
	小計	通常			2,331	103,163,223	77,372,358	25,790,865	
		猶予			0	0	0	0	
		計		167	2,331	103,163,223	77,372,358	25,790,865	

■肉用豚経営安定交付金制度（豚マルキン）

算出期間	令和5年4月から12月まで
肉豚1頭当たりの標準的販売価格	43,724 円/頭
肉豚1頭当たりの標準的生産費	42,245 円/頭
肉豚1頭当たりの交付金単価	—

市況

■和牛子牛市場成績【JA 全農ぐんま渋川家畜市場】

開催月	性別	取引頭数	高値(円)	安値(円)	平均価格(円)	平均体重(kg)	平均日齢(日)	Kg単価(円)
1	雌	138	938,300	188,100	434,779	298	296	1,456
	雄	0						
	去勢	203	992,200	200,200	631,820	332	295	1,898
	合計	341	992,200	188,100	553,246	319	295	1,733

■乳用牛市場成績

開催月	畜種区分	授精区分	腹子品種	頭数(頭)	平均体重(kg)	平均価格(円)
11	未経産			16	335	156,938
	初妊	AI	ホルス	5	600	399,600
			交雑種	49	560	395,633
		ET	和牛	42	543	488,619
		IVF	IVF	2	592	469,000
	経産			9	508	132,889
		AI	ホルス	1	655	162,000
			交雑種	9	636	224,667
		IVF	IVF	1	693	281,000
	合計			134	533	365,791



みんなで行こう！ケイバ！南関東4競馬場開催日程

地方競馬の収益金は畜産の振興に役立っています

詳しくは南関東4競馬場サイト：<http://www.nankankeiba.com/index.html> をご覧ください

◆BAOO高崎

群馬県高崎市岩押町 12-16
お問合せ：027-322-5192



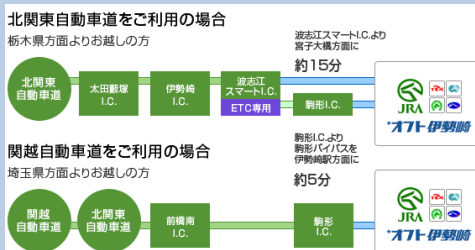
ロイヤル席
個別モニター付き特別
観覧席で快適な一日を
お過ごしいただけます

◆オフト伊勢崎

群馬県伊勢崎市宮子町 3074
伊勢崎オートレース場
グリーンスタンド4階
お問合せ：0270-23-0535



平日、大井、川崎、
船橋、浦和の馬券が
購入できます



【開催日程】

2024年2月																												
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
川崎 SⅢ	川崎			船橋	船橋	船橋	船橋	船橋		大井	大井	大井	大井	大井	大井			浦和	浦和	浦和	浦和	浦和			大井	大井	大井	大井
番組表				番組表		UjnⅢ						UjnⅢ							SⅡ							SⅢ		

2024年 3月																														
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
大井										川崎	川崎	川崎	川崎	川崎																
	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋			大井						大井	大井	大井	大井			浦和	浦和	浦和	浦和	浦和					
					Jpn II	S II							S III						Jpn II						S I					

2024年4月																													
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
川崎	川崎	川崎	川崎	川崎			大井	大井	大井	船橋	船橋	船橋	船橋	浦和	浦和	浦和	浦和	浦和			大井	大井	大井	大井	大井			船橋	船橋
SⅢ	UjnⅠ						SⅢ	UjnⅢ						SⅢ								UjnⅠ	SⅠ						
										大井	大井																		

編集後記

「群馬の畜産・みんなの情報室」をお読みいただきありがとうございます。

年が明け、慌ただしく時間が過ぎていく今日この頃ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

2023 年を振り返ると、今号掲載の共進会や牧場体験、研修会等、新型コロナウイルスの影響を受ける前の形で開催することが多かったと感じています。日頃お世話になっている関係団体や生産者、消費者の皆様と直接お会いする機会が増えたことを嬉しく思います。

今後も各事業の事務手続きや講習会等の開催について円滑に進められるよう、また本会の役割を全うできるよう努めたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

(S.E)